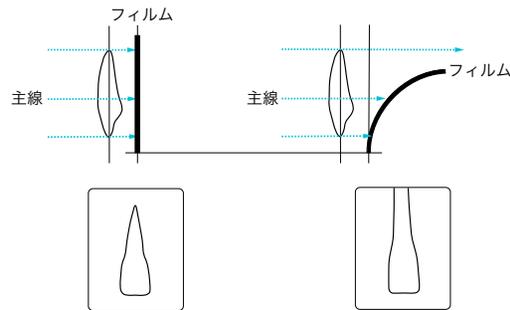


■ 図 5-12 フィルムの保持方法 ■

撮影する側と反対の指で保持する。下顎の場合は肘を張るようにする。

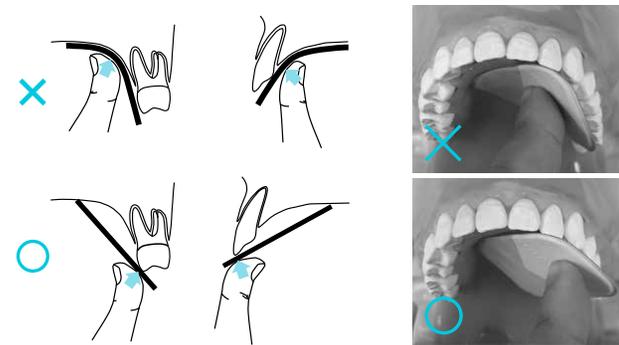


■ 図 5-13 フィルムの曲がりによる像の変形 ■

にくくなる。

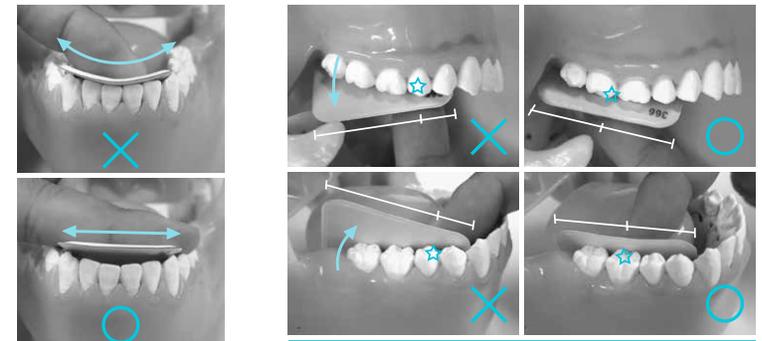
咬頭や切端とフィルムを接触させる(図 5-15, 上)とフィルムが曲がるときは、指全体を使って保持すると、曲げずに保持できる(図 5-15, 下)。

また、時間とともに、舌圧や口蓋の傾斜、唾液によって、保持しているフィルムが滑り、移動することがある。とくに、大白歯部では、フィルムの近心側を押さえがちになるので、遠心側が動く(図 5-16, 左)。これを防ぐには、できるだけ短時間で操作を行うことも大切だが、**近遠心的に中央を押さえ**ると動きにくくなる(図 5-16, 右)。強く押さえると、フィルムが曲がるので注意する。



■ 図 5-14 フィルムの保持の方法 ■

裏打ちのない部分を押さえるとフィルムが曲がるため、咬頭部分と指でフィルムを挟むように押さえると曲がらない。



■ 図 5-15 指全体を使うとフィルムが曲がらない ■

■ 図 5-16 保持の不良 ■

フィルムを保持する位置は、近遠心的に中央部とする。それにより、フィルムがずれにくくなる。☆押さええている位置。

Point フィルム保持は患者自身が撮影側と反対側の指で保持。フィルムを絶対に曲げない。

